

【桐生市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて、全普通教室への電子黒板の導入やデジタル教材・新しい学習用ソフトウェアを購入予定であり、「どのような状況であっても児童生徒の学びを保障できる環境」の整備を進めている。

これらの取り組みにより、「地域の特性を生かし、子どもたちが自ら考え、主体的に行動できる力」を育むことで、本市が目指す学びの姿である「桐生の未来を担い、世界に羽ばたく人づくり」を実現することが可能となる。

2. GIGA第1期の総括

文部科学省の「GIGAスクール構想の実現」に基づき、令和2年度から令和3年度末にかけて市立小中学校の児童生徒に対し、計6,601台を購入したことにより1人1台端末を実現し、ICTを基盤とした新たな学びの確立を進めてきた。

また、令和4年度には市内中学校1校が、群馬県教育委員会による「ICT活用促進プロジェクト」のモデル校に指定され、1人1台端末を活用した授業を推進してきた。

これらの取り組みによりICT活用が推進された一方で、教員のICT活用スキルの格差や、端末の適切な運用をめぐる課題も浮き上がったことから、今後も専門業者によるICT支援業務を継続することで教職員の資質を高めていく必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

学習用ドリルの「eライブラリ」により児童生徒の興味や関心、習熟度に応じた個別最適な学びを推進していき、授業支援ソフトの「ミライシード」の活用により共同制作やリアルタイムでの意見共有を通じた協働的な学びを推進し、1人1台端末を活用したより深い学びを実践してきた。

令和7年度のタブレットの入替に合わせて、学習用ドリルを「ドリルパーク」に一新する。また、電子黒板・デジタル教科書を導入することでさらなる学習環境の向上を図っていく。